

## 平成 29 年度 第 6 回政策討論会第二分科会要点記録

日 時 平成 29 年 12 月 5 日（月）午後 10 時 00 分～10 時 36 分  
場 所 第二委員会室  
出席者 烏野 隆生（座長）  
岸田 厚（副座長）  
澤田 和代  
井舎 英生  
友永 修  
柔原 圭一  
河合 馨  
池内 矢一

討論テーマ 『公共交通のあり方について』

岸和田市としてのあるべき姿、課題の解決について討論する。

◎本市の公共交通について、第 2 分科会では「地域ごとの公共交通の課題について」「先進市の事例について」「岸和田市としてあるべき姿、課題の解決について」等々議論を重ねてきたところです。

先の台風 21 号・22 号に伴う災害により、市内山手地区に於いて、大沢町・土生滝町の府道への土砂崩れにより、道路が寸断され通行止めとなり、地域の足となるバス交通が大きく迂回しての通行を余儀なくされ、通学・通勤利用者に多大な影響がありました。しかしながら、公共交通の面から捉えた時、地域として公共交通利用者と未利用者において、公共交通に対する意識に大きな隔たりがあったのも事実です。むしろ道路の通行止めに対する対処の声が多く、公共交通であるバス利用者が少ないため、声あまり大きくなかったのも問題であると感じられた。しかしながら、平常時では公共交通の充実を望む声も大きくあります。

この度、平成 29 年 9 月に『岸和田交通まちづくり アクションプラン』が出されましたが、市民の多くは公共交通に対して、市即ち行政が確保するものと考えがちですが、市民の発想の変革も必要な時期にきていると思います。

市の財政は、厳しい状況下において、公共性を確保しながらもアクションプランをベースに、市主導の下『市民・交通事業者等・行政』の三者が考える交通手段の確保と実態に即した取り組みが今後一層重要であると考えられる。

例えば、1. 市内を 6 分割し各分割内の運行と、その 6 分割を接点で結び市内全域での交通網を確立する。  
2. 南海ウイングバスより、採算性と利便性を考慮した上での公共交通の「経営プラン」の提出を依頼する。  
3. 隣接他市と跨った境界路線の相互乗り入れ交通網の利用促進(山手岸和田市⇔貝塚市・岸和田市⇔和泉市)を進める。

4. デマンド交通等地域・時代に即した公共交通の確保。  
以上、上記の三者の理解と協力を促し早期な、市主導の対応が必要である。

次回分科会としてのまとめ案の検討